

IV 事業概要

1 学芸事業

【2 調査・研究，収集・収蔵・保管，科学相談等】

(1) 調査・研究活動

① 東日本大震災自然環境調査事業

■ 自然豊かな蒲生干潟継続観察プロジェクト事業

東日本大震災の津波被害で大きくその環境が変わってしまった蒲生干潟について月に1回の継続観察事業を行った。その成果を速報として広報した。令和7年度は441号から479号まで発行した。

＜蒲生調査レポート 速報版の号数とタイトル；令和7年度発行分＞

号数	発行日	速報版 タイトル
第441号	2025.04.13	イシガレイの採集場所が例年と異なる
第442号	2025.04.25	蒲生干潟の地形調査107
第443号	2025.04.28	蒲生干潟の植物④⑥
第444号	2025.05.11	イシガレイは採集できず
第445号	2025.06.08	水門付近の環境の変化
第446号	2025.07.21	活発に活動するカニの仲間
第447号	2025.07.31	カムチャッカ半島沖地震による津波①
第448号	2025.07.31	カムチャッカ半島沖地震による津波②
第449号	2025.07.31	カムチャッカ半島沖地震による津波③
第450号	2025.07.31	カムチャッカ半島沖地震による津波④
第451号	2025.08.15	短時間で堆積した砂州
第452号	2025.09.15	河口の通水は確保されている
第453号	2025.08.01	蒲生干潟の植物④⑦
第454号	2025.09.10	蒲生干潟の植物④⑧
第455号	2025.09.12	蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系
第456号	2025.10.19	水門付近の底質の変化
第457号	2025.08.01	蒲生干潟の地形調査108
第458号	2025.09.10	蒲生干潟の地形調査109
第459号	2025.10.30	蒲生干潟の地形調査110
第460号	2025.10.19	蒲生干潟の植物④⑨
第461号	2025.10.19	蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系②
第462号	2025.11.19	蒲生干潟の地形調査111
第463号	2025.11.19	蒲生干潟の植物⑤⑩
第464号	2025.11.19	蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系③
第465号	2025.11.16	11月のモクズガニ
第466号	2025.12.18	蒲生干潟の地形調査112
第467号	2025.12.16	蒲生干潟の植物51 分布調査

第 468 号	2025. 12. 16	蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系④
第 469 号	2025. 12. 20	生きたカキの確認
第 470 号	2026. 1. 10	穏やかな冬の干潟
第 471 号	2026. 1. 25	蒲生干潟の植物 52
第 472 号	2026. 1. 25	蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系⑤
第 473 号	2026. 2. 11	冬を越す生物
第 474 号	2026. 2. 10	蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系⑥
第 475 号	2026. 3. 12	蒲生干潟の地形調査と七北田川河口の様子
第 476 号	2026. 2. 28	蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系⑦
第 477 号	2026. 3. 15	イシガレイ稚魚の接岸
第 478 号	2026. 3. 23	蒲生干潟の植物 53
第 479 号	2026. 3. 23	蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系⑧

< 科学館研究報告 >

以下の論文が仙台市科学館研究報告第 35 号に掲載された。

『2011年東北地方太平洋沖地震津波後の蒲生干潟の地形変遷その15』

門脇駿・沼尾和弥・佐藤賢治

要約；2011年東北地方太平洋沖地震に伴って発生した津波によって、七北田川河口に広がる蒲生干潟はその姿を大きく変えた。震災後3年間で大きく変動したのち安定した干潟内部の汀線は、その後もほぼ安定な状態を保っていた。今回の調査では、2025年7月に発生したカムチャッカ半島沖地震による津波後の様子や2025年8月に起きた七北田川河口閉塞の様子を調査し、その後の潟湖の形は引き続き安定していることが明らかになった。

『蒲生干潟周辺の塩分濃度（2025）』

沼尾和弥・門脇駿

要約；蒲生干潟の潟湖内及び七北田川河口（11地点）の表層水の塩分濃度を調査した。調査の結果、蒲生干潟内の塩分濃度は一様でなく、同一の採水点でも年間を通して一定の塩分濃度を示さないこと、北部西側の北端では防潮堤・導流提工事後は値が下がり続けていること、潟湖南部側は調査開始以来2.5～2.8%の間で安定していることが示された。

『蒲生干潟で見られる植物について』

伊藤勝彦・数本芳行

要約；蒲生干潟は、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震で発生した巨大津波により、壊滅的な被害を被った。震災から14年が経過し、年々見られる種が増え、その分布も広がってきた。その中でも、ヨシとクロマツの分布図を作成し、成長の様子を報告する。また、コマツヨイグサ、メマツヨイグサなどについても報告する。

『2011年東北地方太平洋沖地震後の蒲生干潟におけるイシガレイの成長（2025年度調査報告）』

佐藤賢治

要約；蒲生干潟は2011年東北地方太平洋沖地震により大きな被害を受けた。干潟は生物の成長過程において重要な位置を占めており、そこに住む生物も大きな影響を受けた。地震後の堤防・導流堤の復旧工事は2021年3月に終了した。人工的な環境の変化は落ち着いたが、豪雨や海流の影響による環境の変化は存在する。環境の変化を考慮しつつ、イシガレイの成長について調査・考察を行った。

『2011年東北地方太平洋沖地震後の蒲生干潟におけるカニ類を中心とした生物の様子（2025年度調査報告）』

佐藤賢治

要約；仙台市宮城野区の七北田川河口にある蒲生干潟は2011年東北地方太平洋沖地震により大きな被害を受けた。本レポートは2011年度から継続して調査した，カニ類を中心とした生物の様子をまとめたものである。2021年3月に復旧工事は終了し環境は安定したが，今年は津波や河口閉塞とそれに伴う掘削工事など様々な環境変化があった。

IV 事業概要

1 学芸事業

【2 調査・研究、収集・収蔵・保管、科学相談等】

(1) 調査・研究活動

② 理科教育に関する調査研究事業

以下の論文を令和8年仙台市科学館研究報告第35号に掲載した。

「実験201 化学変化と電池の変遷」

丹野一輝・佐藤頌・秋山貴之

要約；仙台市内の中学2年生を対象に行っている科学館学習では、物理・化学・生物・地学の4分野の実験学習を行っている。2025年度は化学分野の実験学習を開発して新規授業をスタートさせた。本稿では、新規授業の内容について報告する。

「常設展示物を活用した中学生向け科学館展示学習の開発」

沼尾和弥・宮崎元晴・門脇駿・菅原豪紀・伊藤勝彦・丹野一輝・秋山貴之・宮崎佳彦

要約；仙台市科学館では、2025年4月に常設展の改修工事を終え、全面リニューアルオープンした。市内の中学2年生を対象に行っている科学館学習において、常設展示物を活用した展示学習の内容を新たに開発し、実施した。タブレット端末に表示される問題を解きながら進める学習は、普段よりも展示物を丁寧に見ることにつながり、生徒の科学的探究心の向上に効果を発揮している。

「探究の過程を通した授業展開の実践」

丹野一輝・佐藤頌

要約；社会情勢の急激な変化に合わせ、学習指導要領でも、質の高い探究的な学びが求められている。そこで、探究の過程を通した授業展開についての研修を仙台市教育センター主催の中学校理科研修の中で実施した。その研修内容について報告する。

「仙台市科学館近辺の化石・鉱物産地の現状」

沼尾和弥・門脇駿・本郷栄治

要約；仙台市科学館では、定期的に地学の自然観察会や理科の自由研究の進め方を学ぶ講座を開設している。自然観察ができる場所について、調査結果を報告する。

「等圧線立体視教材と科学館実験装置を活用した地学授業の実践と若手教員研修への展開」

佐々木敏紘・中山慎也

要約；新型コロナウイルス感染症の流行を機に、デジタル教材等が充実してきている。デジタル教材は、学習者の理解の一助となる一方、探究的な学習ができにくくなる場合がある。本稿では、デジタル教材の使用が多く考えられる地学分野の学習において、仙台市科学館で扱われていた実験器具を用いながら、探究的に地学分野の学習を進めることを論じた教員養成大学での講義をもとに、若手教員を対象にした研修内容について検討を行った。

「デジタル地形図と 3D 模型を用いた市街地に伏在する地質構造判読の授業実践」

西城光洋

要約；直線状の地形的特徴の特定は、「伏在活断層」の存在を推定する上で極めて重要である。高校地学においては、従来、地形図上でこうした特徴を認識する実習が行われてきた。しかし、都市部では市街地の町並みの記載が地形図の判読を妨げ、伏在する線状構造を見出すことは容易ではない。本稿では、身近な都市部の坂道の存在から、仙台市内の線状構造をデジタル地形図と 3D 立体地形模型を活用して認識する指導を提案する。

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【2 調査・研究，収集・収蔵・保管，科学相談等】

(2) 収集・収蔵・保管

①収蔵品整理作業

令和7年度，以下の活動を行った。

i)収蔵品の確認と整理

台帳をもとに館内で所有する実験装置や実験器具をはじめとする収蔵品の確認と整理を行った。市内学校への実験器具や実験装置の貸し出しについては，仙台市教育センターと連携し，貸し出し可能なものについて整理，公開した。

ii)蔵書の整理

図書資料室の各種資料を整理した。また，データベースの更新も行った。

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【2 調査・研究, 収集・収蔵・保管, 科学相談等】

② 寄贈資料・刊行図書・資料

令和7年度寄贈図書

No.	企画	タイトル・号数
1		研究紀要 第10号
2	北海道博物館	第11回特別展 新選組永倉新八と会津藩士栗田鉄馬
3		資料目録 第4号
4	沼田町化石館	年報 第22・23合併号
5		年報 第24号
6	斜里町立知床博物館	第43回特別展 大標本展
7		研究報告 第47集
8		館報 2023
9	美幌博物館	研究報告 第32号
10		蛍が舞う風景
11	青森県立郷土館	研究紀要 第49号
12		青森郷土館報 令和7(2025)年度版 通巻52号
13	岩手県立博物館	第73回企画展 星に願いを一宇宙といわての年代記一
14	秋田県立博物館	研究報告 第50号
15		年報 令和7年度
16	山形県立博物館	研究報告 第43号
17		プライム企画展 東北の自然史大図鑑
18		研究紀要 第17号
19	山形県埋蔵文化財センター	研究紀要第17号抜粋 宮の前遺跡出土の大型サメの歯化石の垂飾品について
20	宮城県連合小学校教育研究会理科研究部会	令和7年度 理科教育のあゆみ
21		杜の都環境プラン（仙台市環境基本計画） 令和6年度実績報告書
22	仙台市	杜の都環境プラン（仙台市環境基本計画） 令和6年度実績報告書（概要版）
23		広瀬川創生プラン 2025▶▶▶2034
24		令和6年度 仙台平野地盤沈下調査水準測量報告書
25		令和7年度 仙台版防災教育副読本 3.11から未来へ
26	仙台市教育センター	令和7年度 要覧
27		令和6年度学校情報化研究委員会 研究報告書
28	仙台市博物館	仙台藩主ポケットガイド
29	仙台市教育委員会・仙台市歴史民俗資料館	年報 2025
30		特別展 昭和の仙台
31	地底の森ミュージアム・	研究報告2024
32	縄文の森広場	年報2025
33		特別企画展 氷河期の景色あと
34	東北歴史博物館	年報 令和6年度
35		特別展 宮城に生きる民俗 暮らしを伝えるモノ語り
37	公益財団法人宮城伊豆沼・内沼環境保全財団	伊豆沼・内沼研究報告 vol.19
38	仙台市民図書館	要覧 令和7年度
39	宮城植物の会	宮城の植物 第50号
40		研究報告 第28号
41	ミュージアムパーク	茨城の昆虫たち
42	茨城県自然博物館	茨城の磯の動物ガイド
43		茨城県の動物・植物の本総目録
44	群馬県立自然史博物館	研究報告 29号
45	埼玉県立川の博物館	紀要 2025 25号

46	埼玉県立自然の博物館	研究報告 第19号
47		令和6年度特別展 秩父鉦山の面影 展示解説書
48	全国科学博物館協議会	第33回 全国科学博物館協議会研究発表大会資料
49	紙の博物館	百万塔
50	神奈川県立 生命の星・地球博物館	年報 第30号 (2025年度)
51	福井市自然史博物館	研究報告 第71号
52		ようこそ！ホネ部へ～動物の骨格と標本作製の魅力～
53	野尻湖ナウマンゾウ博物館	野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 第33号
54		開館40周年記念誌
55	瑞浪市化石博物館	研究報告 第51巻
56		研究報告 第52巻
57	岐阜県博物館	研究報告 第45号
58		館報 第48号
59	内藤記念くすり博物館	本草学から植物学・創薬への広がり
60	トヨタ博物館	年報2024
61	京都大学総合博物館	年報 令和6年度
62		研究報告 第34号 2024年
63	大阪市立科学館	研究報告 第35号 2025年
64		館報 Vol. 35 令和6年(2024年)度版
65		第55回特別展 貝に沼る
66		第56回特別展 学芸員のおしごと
67		館報 49
68		館報 50
69		研究報告 78号
70	大阪市立自然史博物館	研究報告 79号
71		展示解説第15集(2024年版)
72		収蔵資料目録 第55集
73		収蔵資料目録 第56集
74		ミニガイドNo. 27 大阪の川原の石ころ(改訂版)
75		自然史研究 Vol. 4 No. 8
76		自然史研究 Vol. 4 No. 9
77	JT生命誌研究館	年報 2024
78	伊丹市昆虫館	研究報告 第12号
79	和歌山県立自然博物館	館報 第43号 令和6年度
80	鳥取県立博物館	研究報告 第62号 2025年
81		年報No. 53 令和6年度
82	公益財団法人 ホシザキグリーン財団	研究報告 第28号
83	山口県山口博物館	研究報告 第51号
84	防府市青少年科学館 ソラール	年報第27号 2024年度
85	徳島県立博物館	研究報告 第35号
86		トクシマ恐竜展2024
87		開館30周年記念誌
88		年報 令和5年度
89	愛媛県総合科学博物館	年報 令和6年度
90		研究報告 No. 29
91		研究報告 No. 30
92	面河山岳博物館	真・カブトムシ
93		研究報告 第10号
94	佐賀県立宇宙科学館	調査研究報告書第17号(2024年度)
95	天草市立御所浦恐竜の島博物館	館報 No. 1
96	熊本市熊本博物館	館報No. 37 2024年度報告
97	東北大学総合学術博物館	紀要 No. 24
98	東北福祉大学	年報16 2024
99	芹沢銈介美術工芸館	芹沢銈介 春夏秋冬ー生涯の四季を歩むー
100	明治大学学芸員養成課程	年報 40
101		紀要 36

102	日本大学生物資源科学部博物館	館報 34
103	日本博物館協会	博物館研究 令和5年度博物館園数関連統計
104		博物館研究 令和6年度新館紹介
105		博物館研究 日本の博物館制度の行方 (9)
106		博物館研究 美術館・長寿の秘訣
107		博物館研究 個人による収集・展示活動
108		博物館研究 I♡キャプション
109		博物館研究 酸化エチレン規制後のIPM
110		博物館研究 博物館の拡張するリアルと体験
111		博物館研究 中高生に向けてのアプローチ
112		博物館研究 博物館と「障がい」—対話から共生の実現へ
113		博物館研究 都道府県立博物館の役割と課題
114		博物館研究 第73回全国博物館大会報告
115		令和7年度 会員名簿
116	((株))仙台経済界	仙台経済界 2025 5-6月号
117	産業技術総合研究所 地質調査総合センター	GSJ地質ニュース Vol.14 No.2・3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12,
118		GSJ地質ニュース Vol.15 No.1, 2
119		活断層・古地震研究報告 第24号
120	文部科学省	令和7年版 科学技術・イノベーション白書
121	株式会社桐井製作所	INTERIOR CATALOGUE
122	CEメディアハウス	Pen特別編集号 君はまだ、海を知らない
123	国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター	令和6年度自然共生研究センター活動レポート 学術と社会の架け橋として
124	(公財)ちゅうでん教育振興財団	2024年度 リサイクル工作コンクール作品集
125	東京大学大気海洋研究所	オオミズナギドリ研究記
126	吉川真由	バイオスタートアップの逆算思考
127	一般社団法人 日本エレクトロヒートセン ター	エレクトロヒート No265 2026

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【2 調査・研究，収集・収蔵・保管，科学相談等】

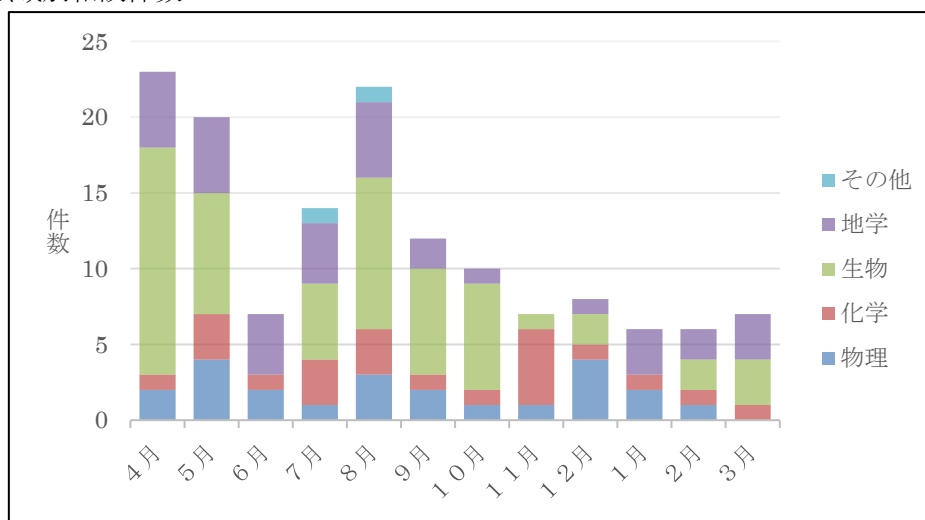
(3) 科学相談

科学相談は，市民からの科学に関する問い合わせに指導主事や社会教育指導員が対応して応えている。相談形式は，来館によるもの，電話やメールによるもの，またはFAXや手紙によるものを対象としており，随時対応している。

令和7年度の相談件数は142件であり，令和6年度の144件よりも相談件数が2件減少した。生成AIの普及により，科学に関する疑問を解消できるツールが増えたことが，減少要因の一つに挙げられる。分野別では，物理23件，化学22件，生物60件，地学35件，その他2件となっている（令和7年4月1日～令和8年3月31日）。相談内容は，身近な物理・化学現象の質問から岩石や化石，昆虫や植物に関する質問や同定の相談などが，持込や電話で寄せられた。

全体の相談件数は，4，5，8月に多かった。4，5月は全館展示リニューアルオープンにより来館者が特に多く，持込の相談が多かった。小中学校の夏期休業期間である8月は，理科作品展に向けて，保護者や児童・生徒からの相談が多く寄せられた。分野では，生物の相談が多かった。

<月別領域別相談件数>



<相談者区分>

